

第2回 軽金属学会賞受賞者表彰

軽金属学会賞は、平成9年10月17日制定された社団法人軽金属学会の最高の賞であり、軽金属に関する学理または技術の進歩発展に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会賞選考委員会（委員長 佐藤史郎）の審査を経て、平成11年2月22日（月）に開催された第25回理事会において平野賢一君の授賞を決定、5月15日（土）に熊本大学で開催の社団法人軽金属学会第96回春期大会において表彰式を挙行了た。



平野賢一君

東北大学名誉教授，東京理科大学教授
理学博士

略 歴

昭和2年5月18日生
昭和27年3月 東京工業大学応用物理学科 卒業
昭和30年11月 東京工業大学応用物理学科助手
昭和32年7月 マサチューセッツ工科大学研究員
昭和34年1月 理学博士
昭和44年4月 東北大学工学部教授（平成3年3月定年退官）
東北大学金属材料研究所併任教授（昭和48年3月迄）
昭和62年2月 学術審議会専門委員（平成2年3月迄）
平成元年5月 軽金属学会副会長（平成3年5月迄）
平成3年4月 東北大学名誉教授
平成3年4月 東京理科大学非常勤講師
平成5年5月 軽金属学会会長（平成9年5月迄）
平成9年5月 (社)軽金属学会名誉会員
平成10年 東京理科大学物理学科教授（現在に至る）

受 賞 理 由

東北大学名誉教授 平野賢一博士は、軽金属学会理事，副会長，東北支部長（東北センター長）等を経て，平成5年より平成9年まで軽金属学会会長として学会の組織運営に多大な貢献をされました。
博士の軽金属に関連する業績を要約すると次の通りです。

軽 金 属 に お け る 時 効 析 出 と 拡 散

(1) 時効析出

各種アルミニウム合金について

- 安定相析出の長時間時効の挙動の解明と，オストワルド成長理論の検証。
- 二段時効現象に対する新しい解釈の提唱。
- G.P. ゾーンを含めた準安定相の熱的安定性と復元の定量的追跡。それらの微細構造の経時変化と硬度，強度，電気抵抗率変化の関係の解明。
- G.P. ゾーンの復元，および安定相の再固溶過程の解明。
- G.P. ゾーンを含めた準安定状態図の決定。
- G.P. ゾーン形成過程に対する熱分析法の定量的応用法，およびアトム・プローブ付フィールド・イオン顕微鏡（AP・FIM）による G.P. ゾーンの極微細構造の決定法の確立。
- 種々の添加元素による時効過程および粒界偏析への影響の検討。
- 難溶性溶質原子固溶度の決定。
- 高純度アルミニウムの再結晶と結晶粒成長に対する添加元素の影響の解明。

- 内部摩擦測定法による再結晶過程の解明。
- マイクロオートラジオグラフ法によるトリチウムの分布状態の決定。
- 小傾角中性子散乱法による相分離の初期過程のナノスケールでの解明。
- エレクトロマイグレーションによる粒界移動速度の決定とその機構の解明。
- 析出過程への通電効果とその機構の提案。

(2) 拡 散

- アルミニウム中のアイソトープ法による不純物拡散係数の決定，EPMA 濃度分析による各種アルミニウム合金の相互拡散の決定，反応拡散による生成相の同定と熱力学的考察による形成機構の解明。
- Ti 合金中の不純物拡散，相互拡散係数の決定と反応拡散生成相の同定および相互拡散時におけるカーケンダール効果に対する検討。

以上のように，軽金属に関する学理および技術の進歩発展に対する博士の貢献は極めて顕著であり，第2回軽金属学会賞に値するものと評価し，ここに表彰する。